

河内
茨田池
深野池武藏國
不忍池攝津國
依網池

前堯後禹 慮厚恤人 智略廣運 慈悲且仁 機事不測 成功若神 潤物如雨 榮人似春
 緣綺雷震 有司創功 紀藤蘿草 果績圓豐 伴相施計 原守在公 良才奇術 民具靡風
 爰有一坎 其名益田 堀之人力 成也自天 車馬霧聚 男女雲連 歸來似子 畢功不年
 深而且廣 鏡徹紺色 混濛渺瀾 謹望罔極 百溪之宗 萬派之職 魚鳥涵泳 虬龍斯匿
 沃潤汎溢 畠畬播殖 孝々我載 稔穡我穡 如坻如京 足兵足食 井田我事 堯帝何力
 [諸州めぐり三]ふかうの池は、深野池とかくと云、本名は茨田池と云、池の廣さ、南北二里東西一里、所により東西半里許有、湖に似たり、其中に島あり、三ヶと云村有、故に此池を三ヶのおき共云、三ヶの島に漁家七八十戸あり、田畠も有、此島南北廿町、東西五六町有と云、此池に鯉、鮒、鯰はすわたがゑび、鰐、鱈、つがに等多し、漁舟多し、日々舟に乗て漁し、魚を大坂にうる又蓮多し、茭實多く、葦多し、皆取用てたすけとす、殊に菱尤多し、是を探て飯にし、餌にし、粥にして糧とす、或菓子にもする、又賣て資とす、菱を取日は定日あり、里民云合せて群出、一人にて妄に取事を禁ず、菱に賦稅はない、又此島より漁人共舟にのり、陸に渡りて田をも作なり。

[日本書紀(皇極四)]二年七月、是月、茨田池水大鳧、小虫覆水、其虫口黒而身白、八月壬戌、茨田池水變如藍汁、死虫覆水、溝瀆之流亦復凝結、厚三四寸、大小魚鳧如夏爛死、由是不中喫焉、九月是月、茨田池水漸變成白色、亦無臭氣。

[日本書紀(崇神四)]山川 依羅池在新井村、俗呼仁右衛門池、其三分、二爲大和川、當今廣六百六十餘畝、下

[日本書紀(崇神六)]十二年十月、造依網池

[日本書紀(應神十)]十三年九月、大鷦鷯尊○仁蒙御歌○應便知得賜髮長媛而大悅之報歌曰、瀬豆多摩、
 蘆豫佐瀬能伊戒珥奴那波區利、破陪鷗區辭羅珥○下

[落穗集追加六]不忍池の辨財天の事